

高齢者の暮らしと介護に関するアンケート調査 結果報告書（概要版）

平成29年3月 高松市

1 調査対象及び有効回収数（調査期間：平成29年2月10日～3月3日）

調査種別	調査対象者	標本数	有効回収数	有効回収率
①高齢者	65歳以上の高齢者の方 (要介護1～5の認定者を除く)	3,000人	1,832人	61.1%
②要介護認定者	65歳以上の高齢者のうち、 要介護1～5の認定者の方	2,800人	1,307人	46.7%
③一般市民	40歳以上65歳未満の方	1,000人	392人	39.2%
合計		6,800人	3,531人	51.9%

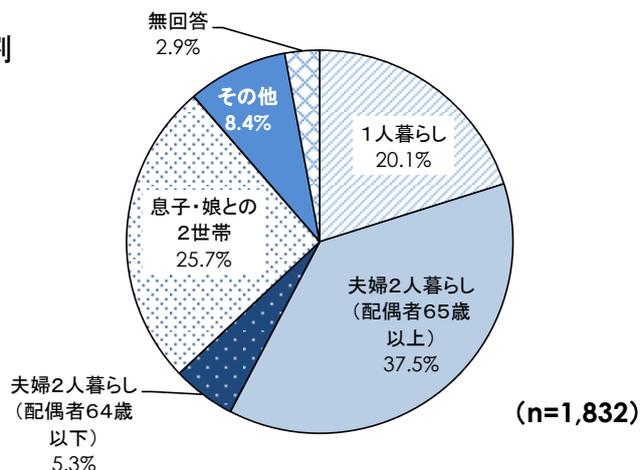
2 結果報告

●家族構成について

(①高齢者、②要介護認定者)

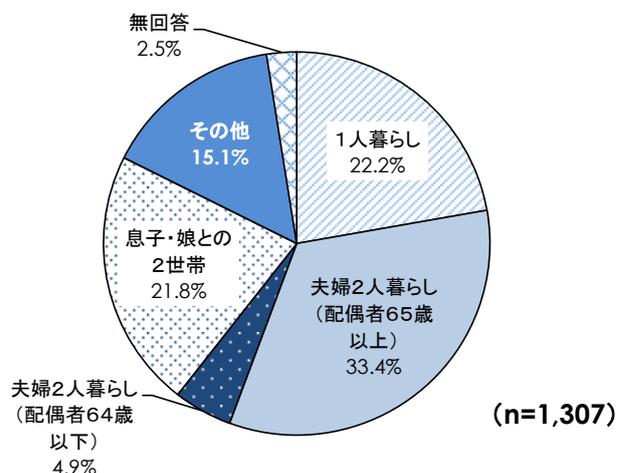
①高齢者（報告書P6）

「夫婦2人暮らし」が合わせて約4割以上、1人暮らしが約2割



②要介護認定者（報告書P110）

配偶者65歳以上の夫婦2人暮らしが約3割、1人暮らしが約2割

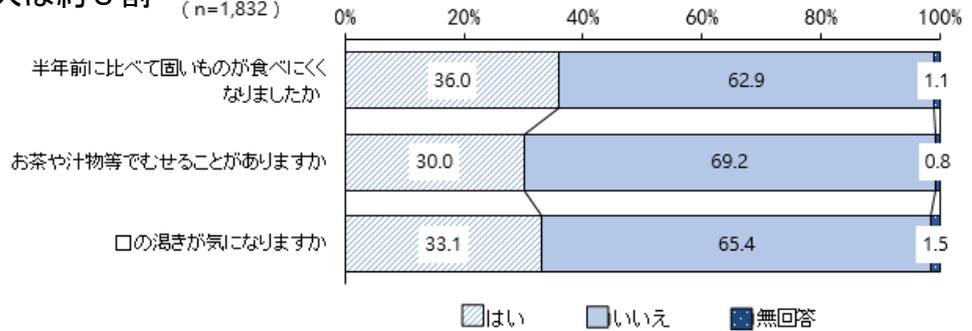


●口腔機能について

(①高齢者、②要介護認定者)

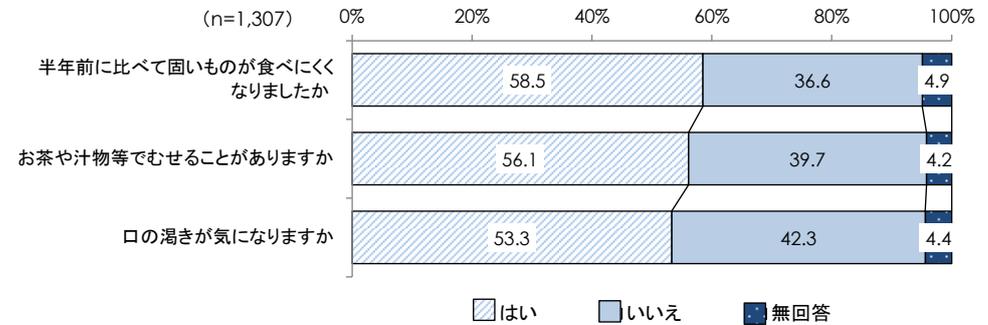
①高齢者 (報告書P26~30)

咀嚼機能の低下を感じている人は3割以上、嚥下機能の低下を感じている人、口の渇きを感じている人は約3割 (n=1,832)



②要介護認定者 (報告書P138)

半数以上の人々が口腔機能の低下を感じており、咀嚼機能の衰えを感じている人が多い (n=1,307)

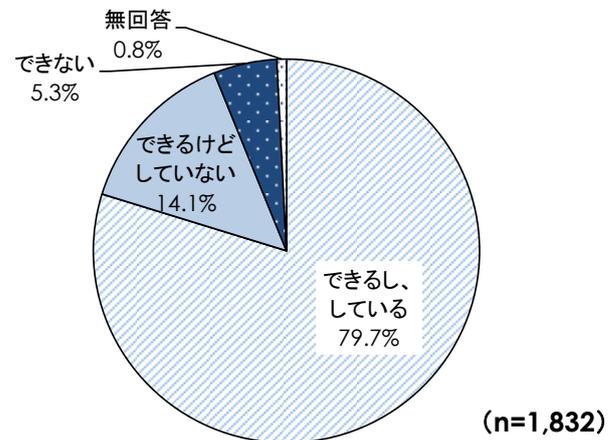


●日用品等の買物について

(①高齢者、②要介護認定者)

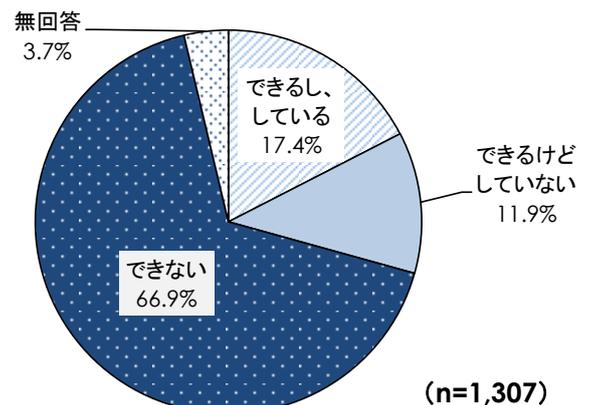
①高齢者 (報告書P38)

大半の人が自分で食品・日用品の買物が可能



②要介護認定者 (報告書P147)

自分で食品などの買物ができる人は3割程度



●生きがいの有無と内容について

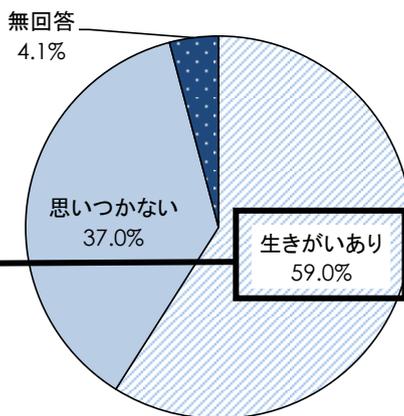
(①高齢者、②要介護認定者)

①高齢者 (報告書P47)

生きがいのある人は約6割を占める

>>生きがいの内容 (上位3つ)

- ・子や孫の成長、交流 (260/1,832)
- ・趣味 (193/1,832)
- ・家族との交流 (86/1,832)

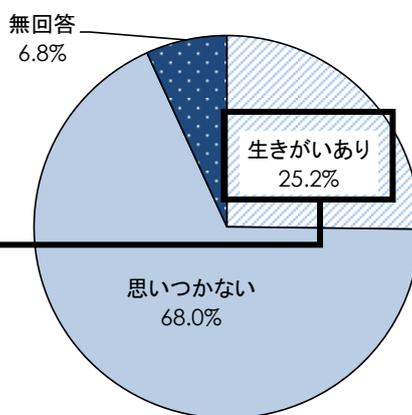


②要介護認定者 (報告書P156)

生きがいが思いつかないが約7割

>>生きがいの内容 (上位3つ)

- ・子どもや孫達のこと (101/1,307)
- ・趣味 (63/1,307)
- ・健康に元気よく暮らす (24/1,307)

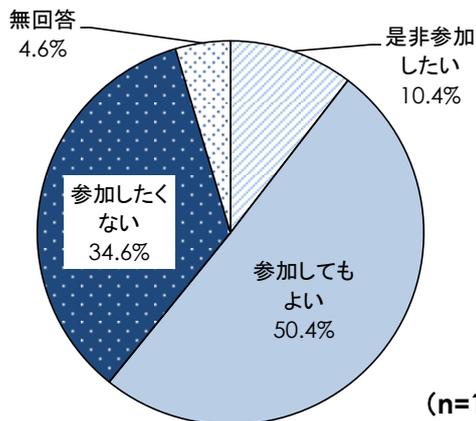


●地域づくりへの参加意向について

(①高齢者、②要介護認定者)

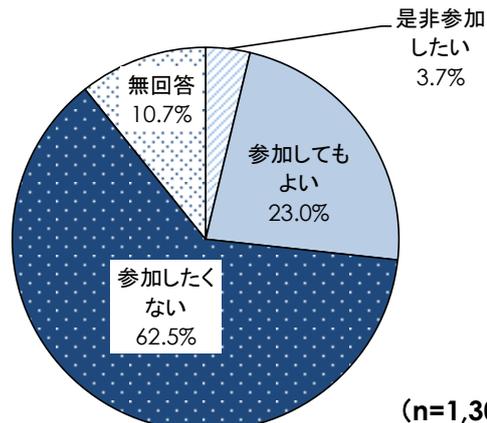
①高齢者 (報告書P49)

「参加者として参加してもよい」と考えている人が過半数を占める



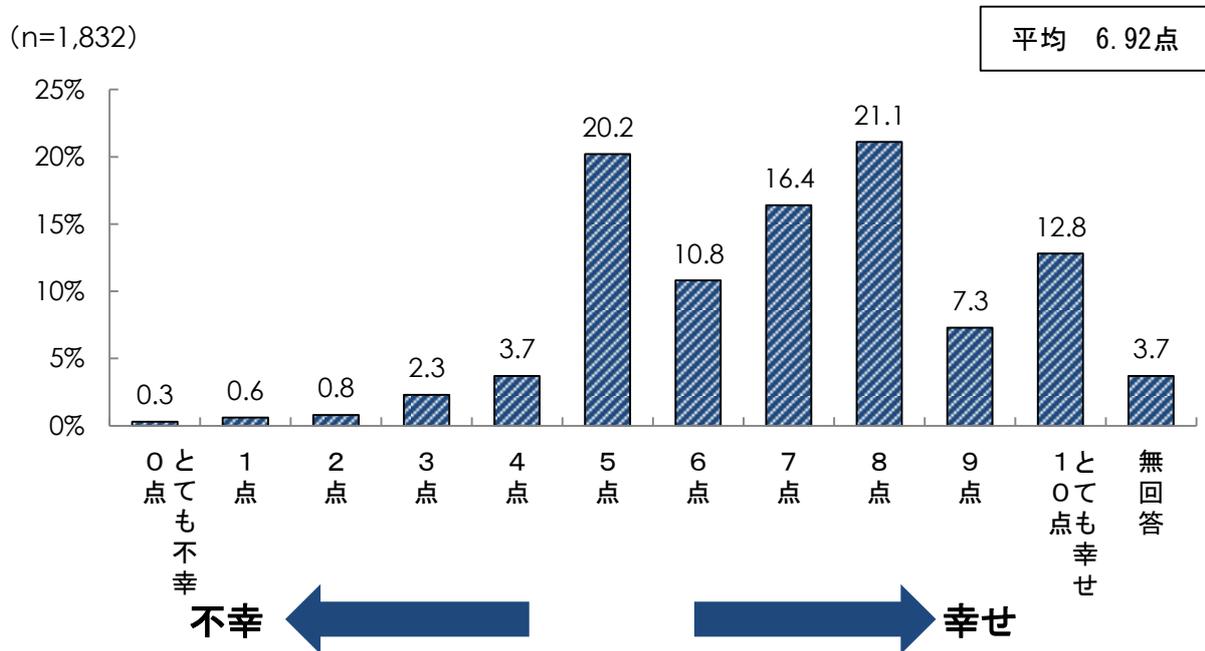
②要介護認定者 (報告書P158)

「参加したくない」が『参加者として参加してもよい』の割合を大きく上回っている



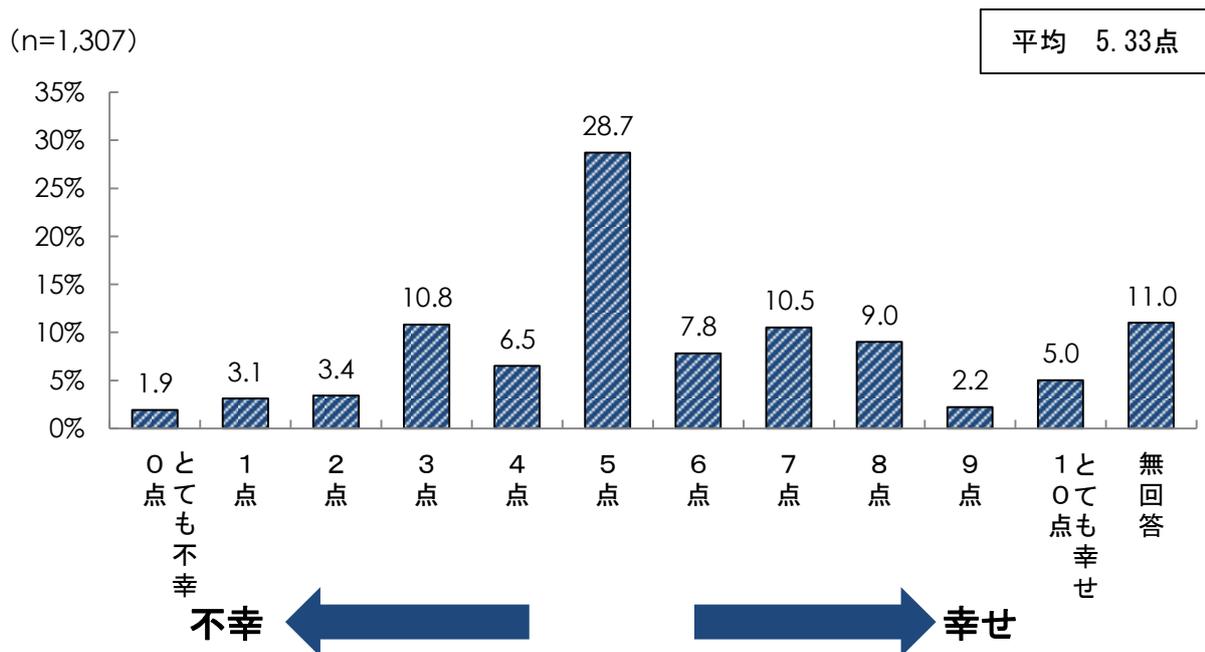
①高齢者(報告書P63)

5点以上の評価をしている人が約9割



②要介護認定者(報告書P169)

5点以上の評価をしている人が約6割



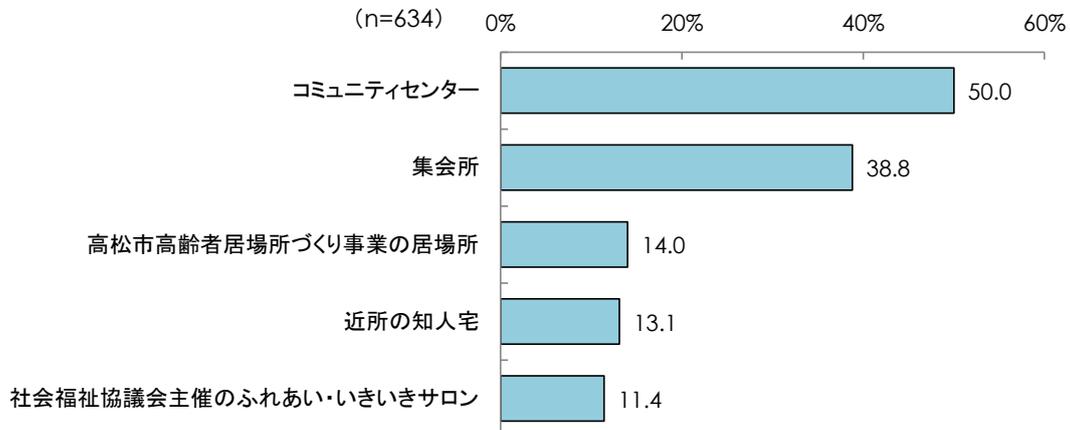
●高齢者が気軽に集える場所について (①高齢者、②要介護認定者、③一般市民)

※高齢者が集える場所が「ある」と回答した方

①高齢者 (報告書P78) (ある=34.6%)

コミュニティセンターや集会所など

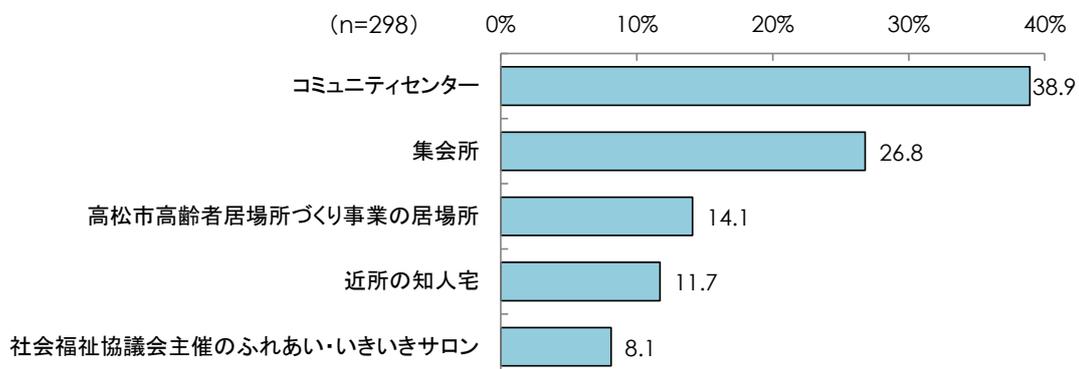
>>高齢者が気軽に集える場所 (上位5つ)



②要介護認定者 (報告書P175) (ある=22.8%)

コミュニティセンターや集会所など

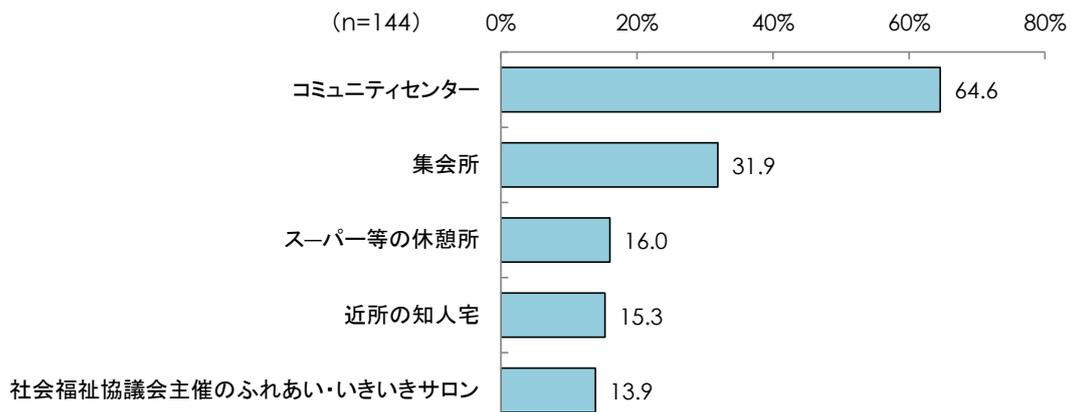
>>高齢者が気軽に集える場所 (上位5つ)



③一般市民 (報告書P199) (ある=36.7%)

コミュニティセンターや集会所など

>>高齢者が気軽に集える場所 (上位5つ)

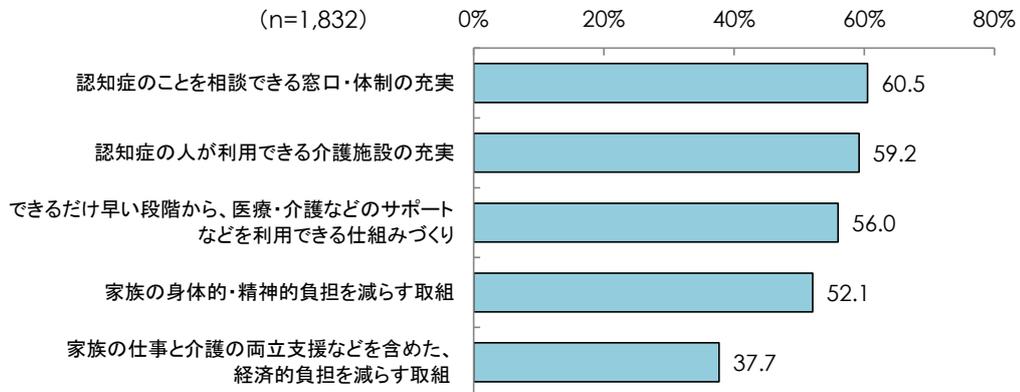


●認知症になっても安心して暮らせるために重点を置くべきこと（①高齢者、②要介護認定者、③一般市民）

①高齢者（報告書P86）

認知症に関する相談窓口や、介護施設の充実、医療・介護のサポートを早い段階から利用できる仕組みづくりなどへの要望が多い

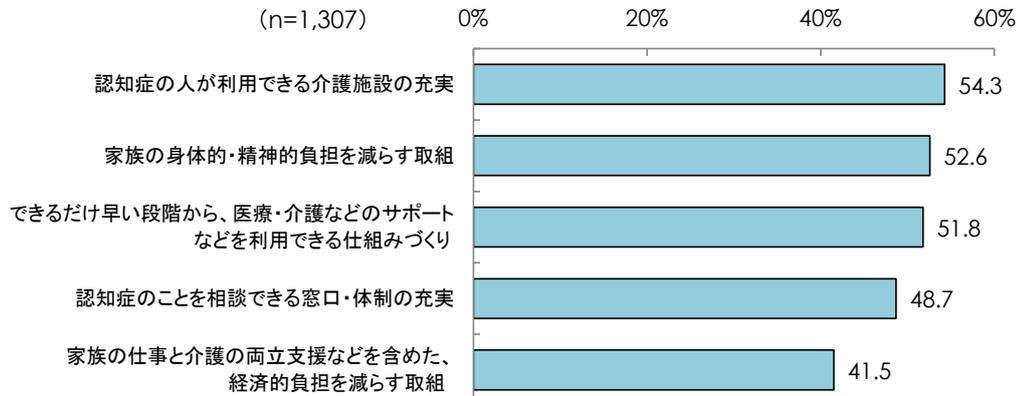
>>重点を置くべきこと（上位5つ）



②要介護認定者（報告書P182）

認知症の人が利用できる介護施設の充実、家族の負担を減らす取組、医療・介護のサポートを早い段階から利用できる仕組みづくりなどへの要望が多い

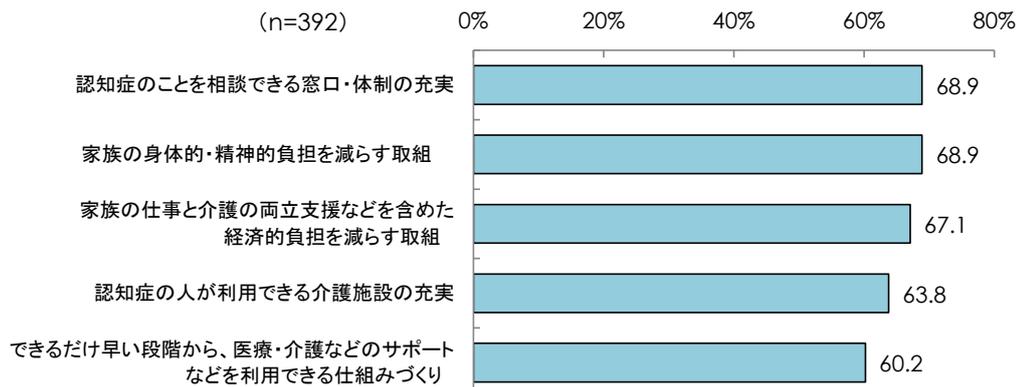
>>重点を置くべきこと（上位5つ）



③一般市民（報告書P206）

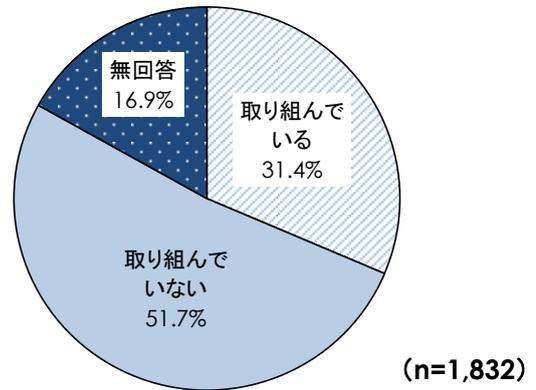
認知症に関する相談窓口や、家族の身体的・精神的・経済的負担を減らす取組や介護と仕事の両立支援への要望が多い

>>重点を置くべきこと（上位5つ）



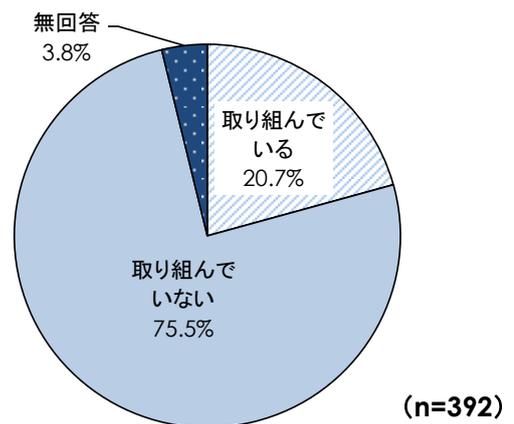
①高齢者（報告書P87）

介護予防に取り組んでいる人は全体の約3割



③一般市民（報告書P213）

介護予防に取り組んでいる人は全体の約2割

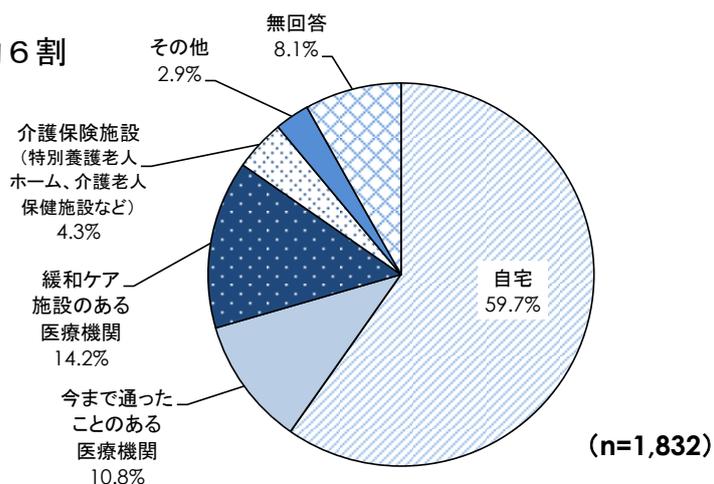


●自分の最期を迎えたい場所について

(①高齢者、②要介護認定者、③一般市民)

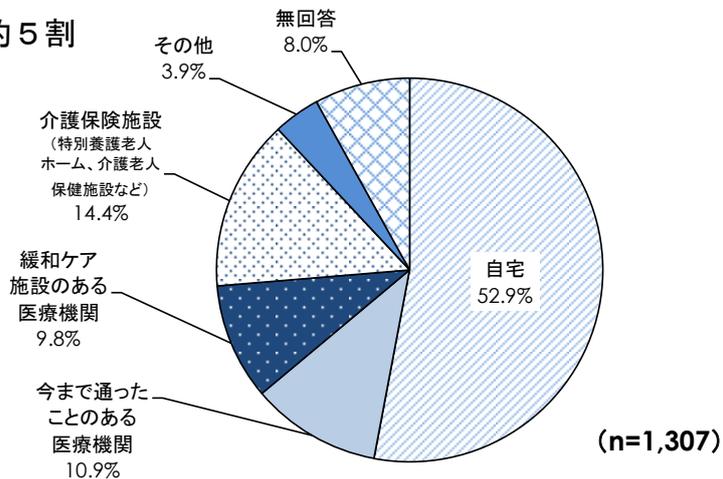
①高齢者（報告書P103）

自宅で最期を迎えたい人が約6割



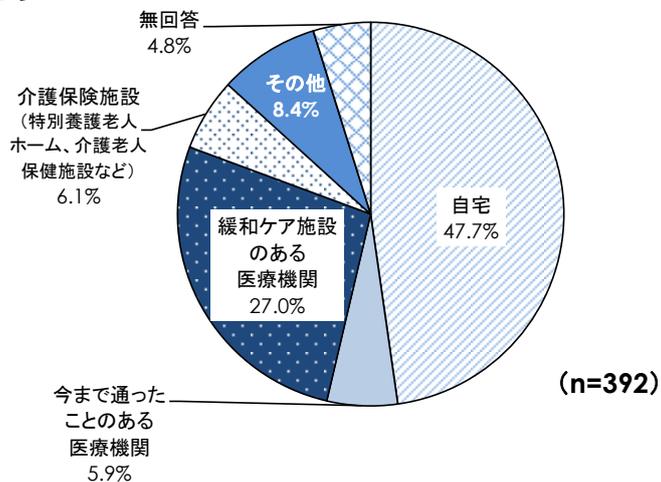
②要介護認定者（報告書P189）

自宅で最期を迎えたい人が約5割



③一般市民（報告書P227）

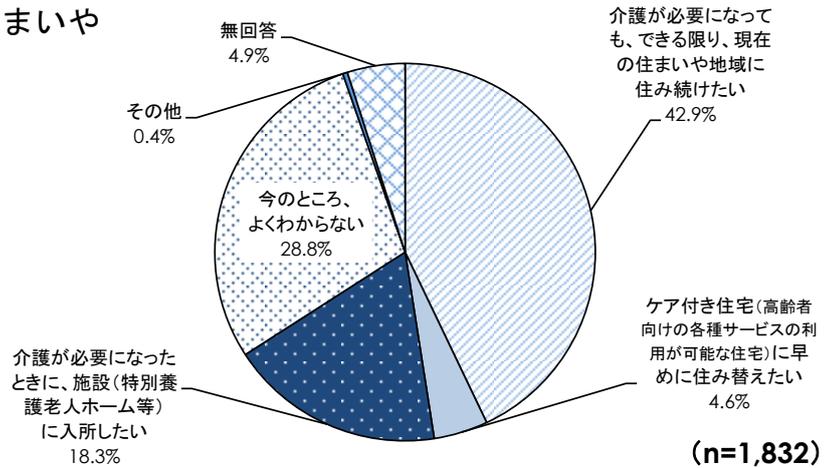
自宅で最期を迎えたい人が最も多い



●将来の住まいと介護サービスの利用について（①高齢者、②要介護認定者、③一般市民）

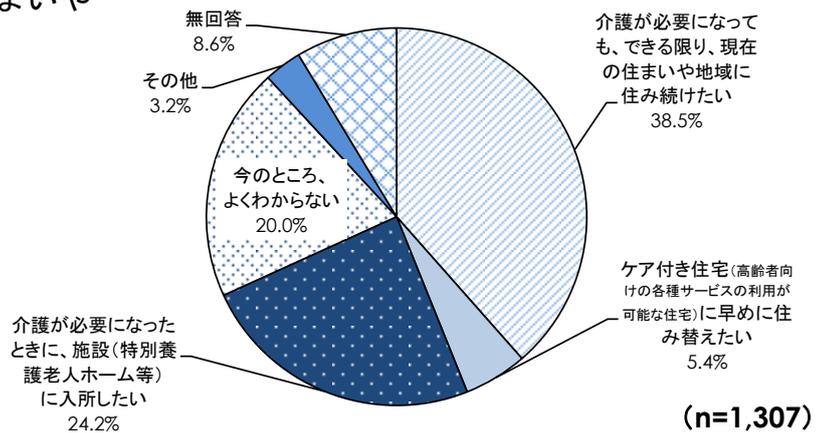
①高齢者（報告書P104）

将来は介護施設よりも現在の住まいや地域に住み続けたい人が多い



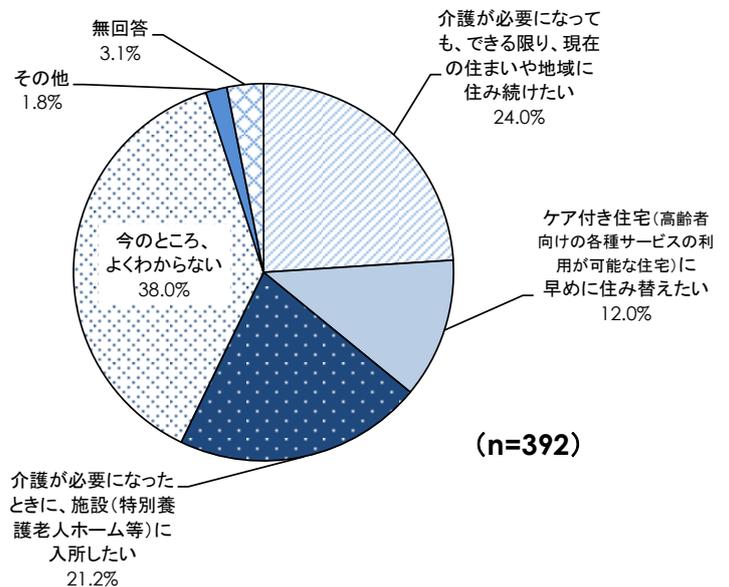
②要介護認定者（報告書P190）

将来は介護施設よりも現在の住まいや地域に住み続けたい人が多い



③一般市民（報告書P228）

現在の住まいや地域に住み続ける、又は必要に応じて介護施設に入所したい人が多い



①高齢者（報告書P231～）

【介護保険サービス・在宅福祉サービスについて】

- ◆介護も必要ですが人との会話がとても大切だと思います。それには家から連れ出す事。一軒一軒回るより何人か1カ所に集まり友達作りから。高齢になると足の確保が大切だと思います。（女性 70～74歳）

【介護予防について】

- ◆介護施設を増やすのではなく介護を必要としない高齢者を増やす様にして欲しい。面倒をみてあげる存在ではなく、社会参加の場所があると良いと思う。老人にも面倒をみてもらいましょう。出来る事があれば、出来る範囲で参加したいと思っています。（女性 65～69歳）

【その他】

- ◆現在のところ健全な生活を営んでいますが、近い将来必ずやってくるという心配があります。早く自覚できればそれなりの対応もできるかと思っています。（男性 75～79歳）

②要介護認定者（報告書P237～）

【介護保険制度について】

- ◆介護する家族のサポート、負担軽減などに力を入れてもらいたいです。周りがとても大変で辛いです。（女性 65～69歳）

【行政への要望・意見について】

- ◆高齢者夫婦で外出が出来なくて困っています。車で外出する事が恐くて外部と話し合う事が出来たらと思っています。（男性 75～79歳）
- ◆老人が自由に集える所があれば良い。そしてそこまでの交通手段が充分している事。（男性 95～99歳）

【その他】

- ◆私も少しずつ体力が減退していくので、最後まで自力で日常生活が営まれるよう現状維持に努めたく思っています。（性別不明 75～79歳）

③一般市民（報告書P241～）

【介護予防について】

- ◆介護が必要になる前の防止していく取組みに力が必要ではないかと思っています。習いごと、趣味的な教室、感心が持てるサークル等の会合の場（仲間に入り安い）に馴染みやすい場があれば良いのではないかと思います。（男性 60～64歳）
- ◆40代50代を健康に過ごすことにより60代以降の状態が決まります。40代50代の禁煙、肥満防止、運動不足対策が大変重要と思います。（女性 50～54歳）

【その他】

- ◆地域の独り暮らしのお年寄りなど気になります。近所同士で、声を掛け合いやすいような何かの機会（マンション全員参加のイベントなど）があれば、知り合いやすいのと思っています。人と仲良くなる事が、まず第一歩だと思います。（女性 40～44歳）
- ◆これから妊婦、出産、育児という世代にとっては、自分自身が高齢者になった時のことよりも、親が介護を必要とする状態になった時の事の方が気になる。ダブルケアが必要なきに一つの窓口で相談したり対応してもらえたりということが現在出来ているのか知りたい。（女性 40～44歳）